

国連開発計画が提唱する 新しいジェンダー不平等指数—— データ加工の落とし穴



すぎはし
杉橋 やよい
金沢大学経済学経営学系准教授

■ ジェンダー・エンパワーメント指数(GEM) からジェンダー不平等指数(GII)へ

2010年11月に、国連開発計画(UNDP)は『人間開発報告書』刊行20周年記念の『人間開発報告書2010』において、1995年以来毎年公表してきたジェンダー開発指数(GDI: Gender Development Index)およびジェンダー・エンパワーメント尺度(GEM: Gender Empowerment Measure)を廃止し、代わって「ジェンダー不平等指数(GII: Gender Inequality Index)を発表した。

GDIやGEMは、ジェンダーに関する代表的総合指数として、これまで国際的にも日本でも、広く利用されてきた。平均寿命、教育水準(成人識字率と就学率)、勤労推定所得といった人間開発の達成度を表すのが人間開発指数(HDI: Human Development Index)であるが、GDIはこれに男女差を加味したものである。これに対して、GEMは、能力を活用する機会に着目し、国会議員の女性割合、専門職・技術職や管理職に占める女性割合、勤労推定所得の男女間の不平等を指数化したものである。「日本は、HDIで上位だが、GEMでは中位以下に下落する」という常套表現で、GEMは、日本の男女平等度の遅れを示す格好の指数として白書をはじめ多くの文献で使われていた。実際、2009年では、日本は、HDIで182か国中10位、GEMは109か国中57位だった。ところが、GDIとGEMに代わって2010年に登場したGIIで日本は138か国中12位に「躍進」した。GIIは、男女間の相対的な社会的格差を浮き彫りにすることを目的に、人間開発の指標と能力を活用する機会の指標とを統合した単一の総合指数である。UNDPによれば、GIIは、GEMが内包していた問題を減じて、よりの確に男女不平等を測定していると言う。では、GIIは日本の深刻な男女不平等を測定できるのだろうか。

■ UNDPが考えるGEMの問題点

そもそもGDIやGEMに対しては、取り上げる指標、計算方法、

ランキング等において、統計界から批判が絶えなかったが、UNDPがGEMの主要な問題点として挙げたのは、(1)絶対的な達成水準と相対的な達成水準を結合した点、(2)実際のデータが無いために、推定値を多用した点、(3)指標が都市エリートに偏り、先進諸国により適合的であった点、である。詳しく言うと、GDIとGEMで使われた「男女の推定勤労所得」は、1人当たりのGDPの絶対的な大きさと非農林業の雇用者賃金の男女間の相対的格差とを用いて算出されたので、GDPの絶対的な水準に大きく左右され、その結果、先進国が上位に来ることになったし、経済参加の分野では、雇用者の、しかも専門職や管理職といった高位の職を対象にしたため、農林漁業を無視し「都市のエリート」に偏重したことなどの問題があった。また、GDIで使われた識字率などは、実際のデータは得難く、他のデータで代替させることが多かった。そこで、これらの問題を克服すべく、UNDPはGIIという新たな総合指数を作ったことになる。

■ 「リプロ」「エンパワーメント」「経済活動への参加」からはかるGII

GIIでは、3分野5つの指標が使われた。すなわち、第1にリプロダクティブ・ヘルス——(i)妊産婦死亡率、(ii)若年出産率、第2にエンパワーメント——(iii)国会議員の女性割合、(iv)中等以上教育の修了率、第3に経済活動への参加——(v)労働市場への参加率、である。これらを、幾何平均(比率の平均に用いる。n個のデータの積のn乗根)、調和平均(速度などの平均に用いる。逆数の算術平均の逆数)、算術平均(最も一般的な方法。n個のデータの合計値をnで割る)を用いて、ウエイトをつけず、つまりどの指標も同等の重要性を与えて、GIIは計算されている。

UNDPによれば、GIIは、まだ試行段階で、今後修正・改善を重ねられていく予定であるが、GEMよりも以下の点で優れているという。すなわち、実際のデータを使い、極めて重要な分野を取り上げ、一国の開発レベル(特に1人あたりGDP)に左右されずに、男女間格差を浮き彫りにできる、等である。他方で、国会議員に

限定し依然としてエリートへの偏りがあり、ジェンダー問題で重要な、生活時間の配分の男女差やDVなどを取り上げていないという弱点も認めているが、これらはデータの不足によるので、現時点ですぐには解決できない、と述べている。

■ GIIの問題点

それでは、UNDPによるGIIの評価も参考にしながら、GIIを特徴づけ、暫定的に評価してみよう。まずは、取上げている指標が、GEMとは違って、非農林業の雇用者に限定されず、都市エリートではなく、幅広い層を対象にしようとしている点は評価すべきだろう。しかし、上記のGEMの問題は依然として解決されてはおらず、そればかりか新たな問題も内包してしまっている。

第1に、指数の計算方法の問題。確かに、所得の絶対額の大きさがその男女間での相対的格差を覆い隠してしまうという問題は、所得を指標の基礎データから除いてしまうということによって解決されたが、それに代わって導入された基礎データの評価においては、相変わらず、同じ問題が繰り返されている。すなわち、中等以上の教育についていえば、修了率という水準とその男女間での相対的格差を同時に考慮しているので、修了率の高い国は、男女差があっても、修了率の低い国より、優位に立ってしまう。そもそもリプロダクティブ・ヘルス、中等以上の教育などの分野は、法およびインフラの整備が進んでいる先進国に有利になる傾向があるが、水準の考慮によってこの傾向はますます強くなる。

第2に、指標データそのものの問題。たった5つの指標で、一国の男女間の格差を測定するには無理がある。しかも、なぜこの3つの分野、またこの5つの指標なのか、といった明確で説得力のある説明はない。実際、各指標は男女不平等を反映するものとしてもっとも適切であるようには思われない。例えば労働市場については、その入口の労働力率が取り上げられるだけだが、肝心の労働条件の男女差は考慮されていない。

■ 日本のジェンダー不平等は世界12位?—— 計算方法が違えば順位も違う

さて、GIIで日本は12位に「躍進」したが、これは既に見たとおり、使われている指標と計算方法によるのであって、日本の場合、妊産婦死亡率や若年出産率が低く、中等教育以上への修学も高く男女差が小さいことなどによる部分が大きい。GIIの日本の順位の高さは、日本で男女平等が進んでいることを必ずしも意味しないことに注意する必要がある。男女間の格差そのものに着目

するのであれば、世界経済フォーラムの「世界ジェンダー格差指数(GGGI: Global Gender Gap Index)」を利用する方がベターであろう。GGGIは、経済、教育、政治および健康の4分野14指標を使い、絶対的な水準を指標に入れずに男女間の相対的格差——だけに焦点を当てて指数化したものである。それによると日本は2010年134か国中94位であった。

■ 総合指数を利用する時には相対化を

統計作成者側がこのような総合指数を改良して、できるだけ現実を正確に反映するようにしなければならないことは言うまでもないが、それとともに利用者側はその限界をもわきまえておく必要があるだろう。ジェンダーに関する総合指数は、各国をランキングすることもあって、アピール力がありメディア受けするが、GIIにしてもGGGIにしても、どれほど改良しようとも、複雑で多方面に見られるジェンダー不平等をすべて反映することはできず、限定的な情報しか提供できないのである。利用者である我々は、そもそも統計データを鵜呑みにしないで、現実のジェンダー問題と照らし合わせて判断する必要がある。そして、GIIやGGGIのような総合指数を利用するときは、それを過大に評価せずに相対化する姿勢を身につけ、またその国際的な順位を一人歩きさせないように心掛ける必要があるだろう。

表 HDI、GII、GGGIの上位20か国と日本

	2010HDI	2010GII	2010GGGI	参考	
				2009GDI	2009GEM
1	ノルウェー	オランダ	アイスランド	オーストラリア	スウェーデン
2	オーストラリア	デンマーク	ノルウェー	ノルウェー	ノルウェー
3	ニュージーランド	スウェーデン	フィンランド	アイスランド	フィンランド
4	アメリカ合衆国	スイス	スウェーデン	カナダ	デンマーク
5	アイスランド	ノルウェー	ニュージーランド	スウェーデン	オランダ
6	リヒテンシュタイン	ベルギー	アイスランド	フランス	ベルギー
7	オランダ	ドイツ	デンマーク	オランダ	オーストラリア
8	カナダ	フィンランド	レト	フィンランド	アイスランド
9	スウェーデン	イタリア	フィリピン	スペイン	ドイツ
10	ドイツ	シンガポール	スイス	アイスランド	ニュージーランド
11	日本	フランス	スペイン	ベルギー	スペイン
12	韓国	日本	南アフリカ	デンマーク	カナダ
13	スイス	アイスランド	ドイツ	スイス	スイス
14	フランス	スペイン	ベルギー	日本	リヒテンシュタイン
15	イスラエル	キプロス	英国	イタリア	英国
16	フィンランド	カナダ	スリランカ	ルクセンブルク	シンガポール
17	アイスランド	スロベニア	オランダ	英国	フランス
18	ベルギー	オーストラリア	ラトビア	ニュージーランド	アメリカ合衆国
19	デンマーク	オーストラリア	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国	ポルトガル
20	スペイン	韓国	カナダ	ドイツ	オーストラリア
:			:		:
57					日本
:			:		:
94			日本		

出所: UNDP (2010) *Human Development Report 2010*, World Economic Forum (2009) *The Global Gender Gap Report 2010*より作成。